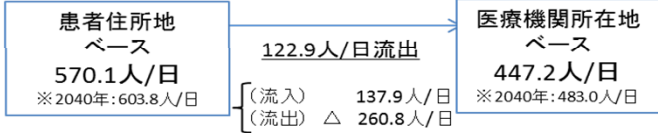




# 2025年における4機能ごとの流出入の状況

## 高度急性期機能

### 2025年推計患者数

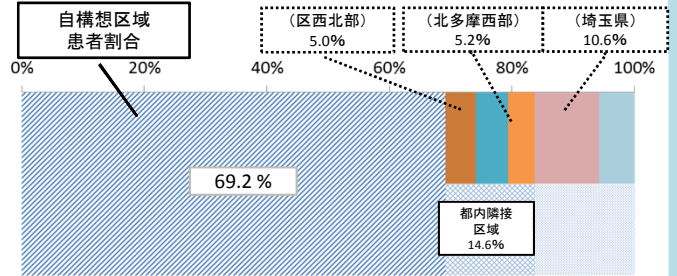


### 流出入の状況

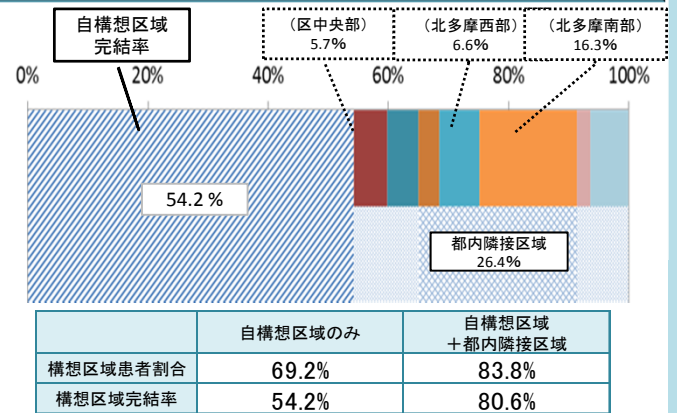


流入		流出			
1	埼・西部	28.2人/日	1	北多摩南部	92.9人/日
2	北多摩西部	23.3人/日	2	北多摩西部	37.9人/日
3	区西北部	22.4人/日	3	区中央部	32.3人/日

### 北多摩北部の医療機関に入院する患者の住所地

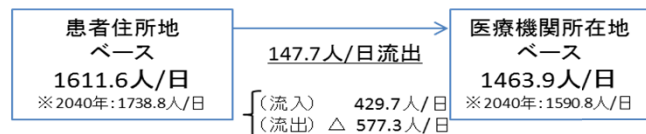


### 北多摩北部在住の患者が入院する医療機関の所在地

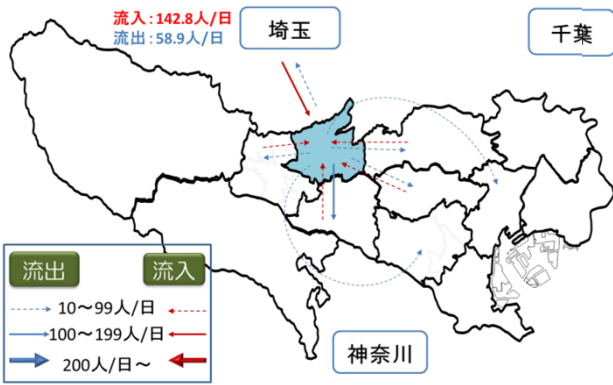


## 急性期機能

### 2025年推計患者数

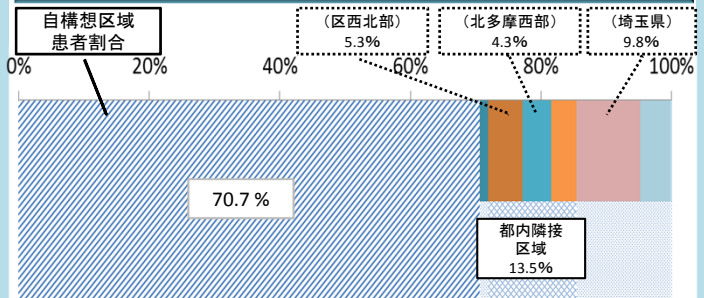


### 流出入の状況

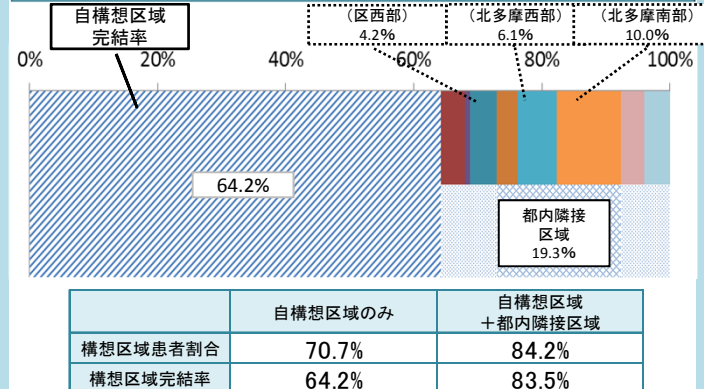


流入		流出			
1	埼・西部	88.4人/日	1	北多摩南部	160.9人/日
2	区西北部	78.0人/日	2	北多摩西部	98.1人/日
3	北多摩西部	63.5人/日	3	区西部	68.0人/日

### 北多摩北部の医療機関に入院する患者の住所地



### 北多摩北部在住の患者が入院する医療機関の所在地

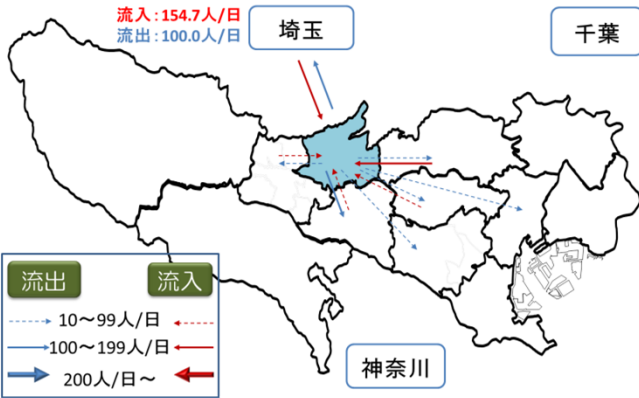


## 回復期機能

### 2025年推計患者数



### 流出入の状況



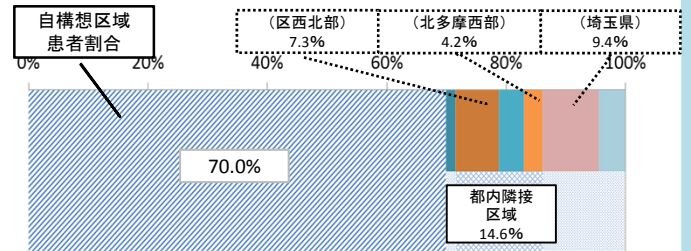
流入	
1 区西北部	119.7人/日
2 埼・西部	91.4人/日
3 北多摩西部	69.1人/日

流出	
1 北多摩南部	175.4人/日
2 北多摩西部	86.4人/日
3 埼・西部	75.4人/日

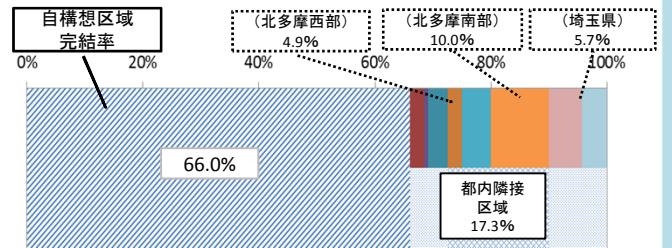
<凡例>



### 北多摩北部の医療機関に入院する患者の住所地



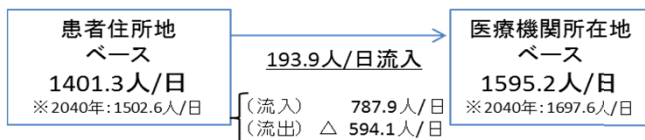
### 北多摩北部在住の患者が入院する医療機関の所在地



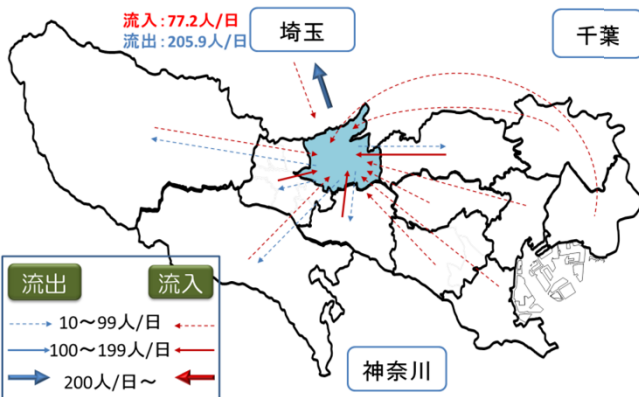
	自構想区域のみ	自構想区域 + 都内隣接区域
構想区域患者割合	70.0%	84.6%
構想区域完結率	66.0%	83.3%

## 慢性期機能

### 2025年推計患者数



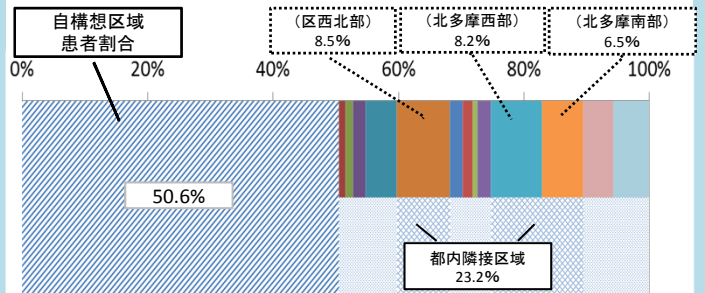
### 流出入の状況



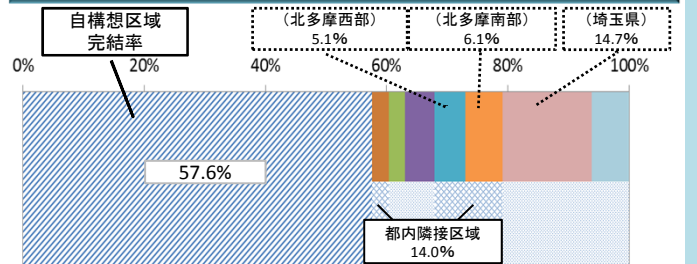
流入	
1 区西北部	135.4人/日
2 北多摩西部	130.6人/日
3 北多摩南部	104.1人/日

流出	
1 埼・西部	171.1人/日
2 北多摩南部	85.8人/日
3 北多摩西部	71.6人/日

### 北多摩北部の医療機関に入院する患者の住所地

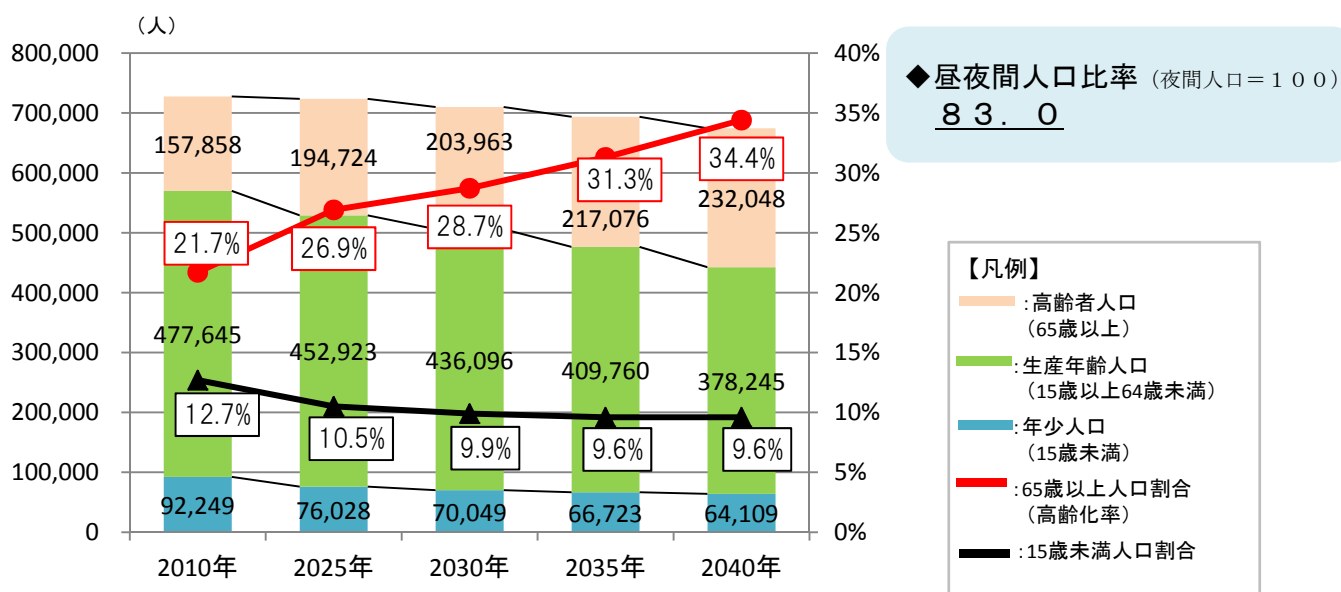


### 北多摩北部在住の患者が入院する医療機関の所在地



	自構想区域のみ	自構想区域 + 都内隣接区域
構想区域患者割合	50.6%	73.8%
構想区域完結率	57.6%	71.6%

## ② 2015年から2040年までの人口・高齢化率の推移



### ◆ 高齢者のみ世帯の状況

高齢者単独世帯数(全世帯に占める割合)	30,085世帯 (9.6%)
高齢者夫婦世帯数※(全世帯に占める割合)	32,076世帯 (10.2%)

※夫65歳以上、妻60歳以上

## ③ 医療資源の状況 等

### I 病院数・病床数

一般病床		療養病床		(参考)		
病院	診療所	病院	診療所	精神病床	感染症病床	結核病床
4,268	144	1,743	0	2,193	6	216

### II 主な入院基本料等別病床数(平成26年度病床機能報告より)

北多摩北部の届出状況	病床数	北多摩北部人口10万対	都内人口10万対
特定機能病院一般病棟入院基本料	0	0.0	97.2
一般病棟7対1入院基本料	1476	202.9	251.4
一般病棟10対1入院基本料	734	100.9	95.1
一般病棟13対1入院基本料	293	40.3	20.0
一般病棟15対1入院基本料	234	32.2	25.5
療養病棟入院基本料 ※1	1115	635.9	456.1
療養型介護療養施設サービス費(介護療養病床として使用) ※2	177	101.0	101.5
障害者施設等入院基本料	475	65.3	30.9
特殊疾患入院医療管理料/入院料	18	2.5	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	392	53.9	40.7
地域包括ケア病棟入院料/管理料	39	5.4	3.7
緩和ケア病棟入院料	65	8.9	3.7

※1は医療療養病床、※2は介護療養病床と読み替え。いずれも、人口10万対病床数は、高齢者人口を使用

#### ④ 医師・歯科医師等の従事者数

医師	歯科医師	薬剤師	助産師	看護師	理学療法士 (PT)	作業療法士 (OT)	言語聴覚士 (ST)
1,535.7 (211.2)	570.3 (78.4)	258.0 (35.5)	100.7 (13.8)	4,082.9 (561.4)	344.4 (47.4)	200.5 (27.6)	79.0 (10.9)

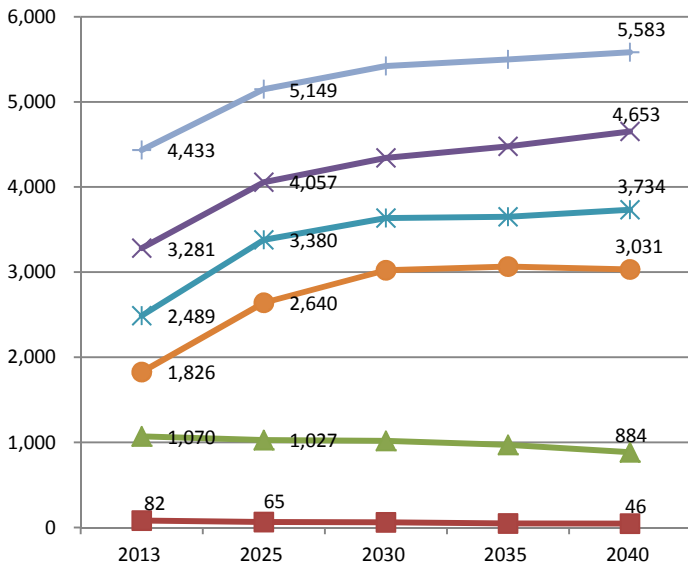
下段( )は人口10万対。算出基準となる人口は「住民基本台帳による人口(日本人及び外国人)」平成26年10月1日現在

#### ⑤ 構想区域の特徴

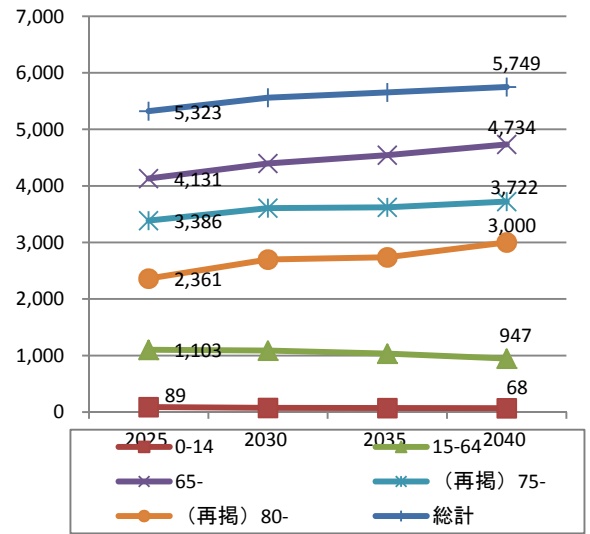
<p><b>高度急性期機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自構想区域完結率は54.2%で、都内隣接区域を含めると80.6%</li> <li>・ 流出先は北多摩南部が多く、流出患者の3割強を占める</li> <li>・ 流入元で最も多いのは、埼玉県の隣接区域</li> </ul>
<p><b>急性期機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自構想区域完結率は64.2%で、都内隣接区域を含めると83.5%である</li> <li>・ 流出先は北多摩南部が多く、高度急性期機能から継続して入院している患者も含め、流出患者の約3割を占める</li> </ul>
<p><b>回復期機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流入元・流出先は高度急性期機能・急性期機能と同様の傾向であり、自構想区域完結率は66.0%で、都内隣接区域を含めると83.3%</li> <li>・ 人口10万人あたりの回復期リハビリテーション病床数は、都平均の約1.3倍</li> </ul>
<p><b>慢性期機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自構想区域完結率が57.6%で、都内隣接区域を含めると71.6%と多摩地域で最も低い</li> <li>・ 高齢者人口10万人あたりの医療療養病床数は、都平均の約1.4倍、介護療養病床数は、都平均並み</li> <li>・ 流出先で最も多いのは、埼玉県の隣接区域</li> </ul>

## ⑥ 推計患者数(医療機関所在地ベース)

＜医療機関所在地ベースの医療需要推計（患者数）＞



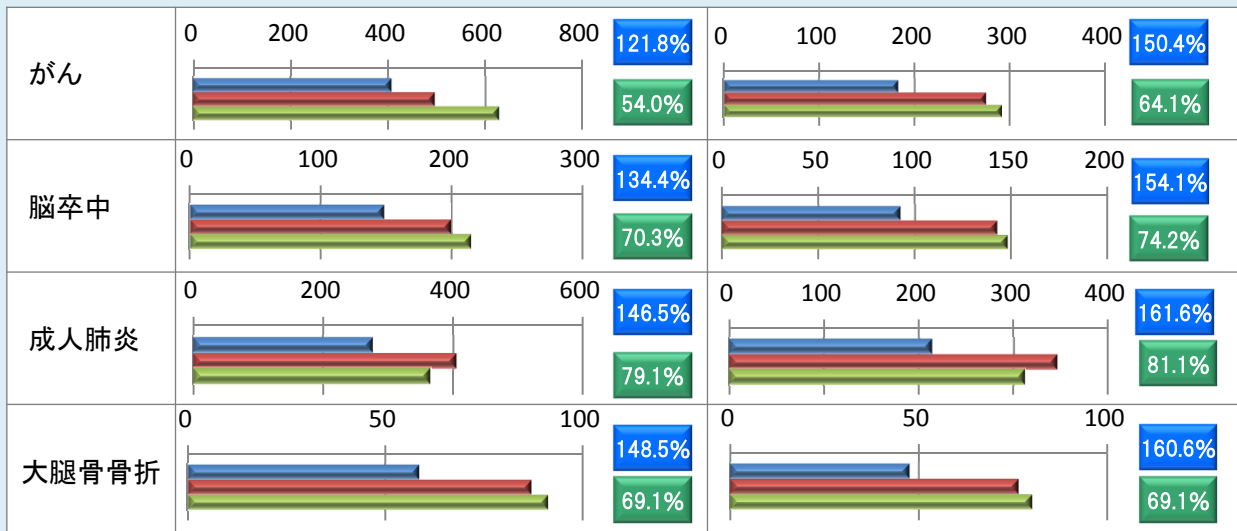
(参考) ＜患者住所地ベースの医療需要推計（患者数）＞



＜厚生労働省「必要病床数等推計ツール」＞

平成25年（2013）年における医療需要は、医療機関所在地ベースにて算出される。そのため、患者住所地ベースの医療需要推計は2025年以降を掲載

主要疾患別にみた患者の伸び率と自構想区域完結率(2025年)【グラフ左側：全年齢／右側：75歳以上】



【凡例】

■ 2013年医療機関所在地ベース  
■ 2025年医療機関所在地ベース  
■ 2025年患者住所地ベース

患者伸び率

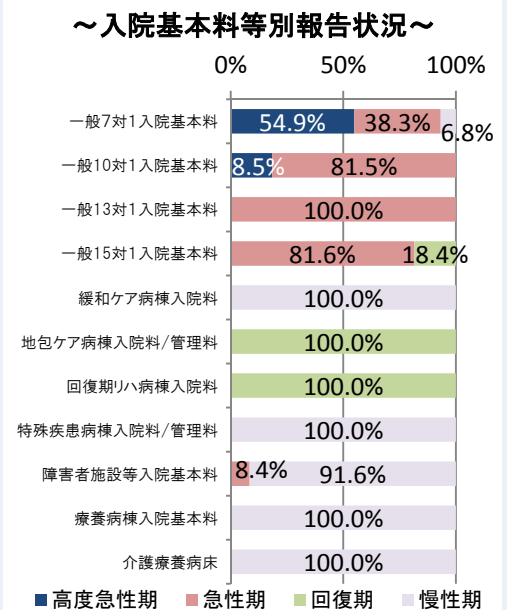
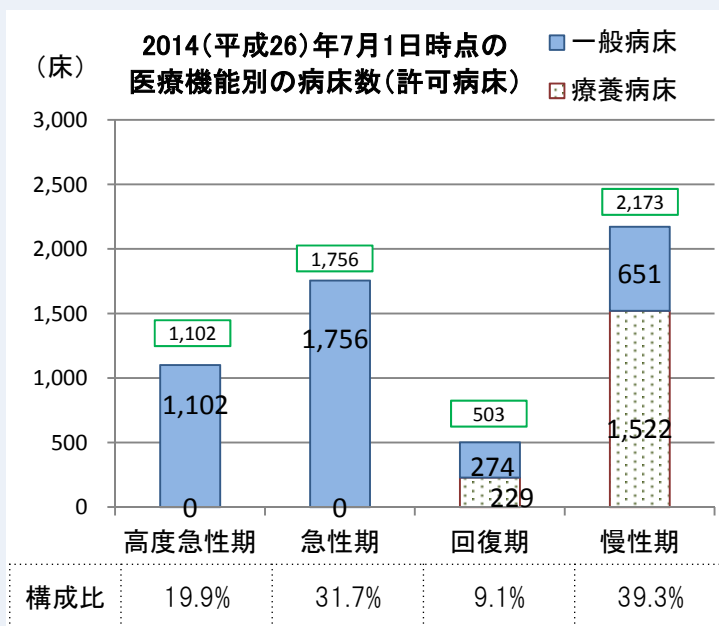
自構想区域完結率

## ⑦ 平成37年(2025年)の病床数の必要量 等

- 高度急性期機能から慢性期機能まで、いずれも医療機関所在地ベースの考えに基づき、将来の病床数の必要量を推計しました。

	高度急性期 機能	急性期 機能	回復期 機能	慢性期 機能	(人/日)	
					在宅医療等	(再掲) 訪問診療のみ
患者数	447	1,464	1,647	1,595	9,975	6,584
病床数	596	1,877	1,830	1,734	—	—

### 平成26年度病床機能報告結果



## 「意見聴取の場」等の意見

### ◆地域特性

- ・地域の連携会議などでコミュニケーションを取っており、全体の連携は取れている。
- ・地域の医療機関自身が高度急性期機能から慢性期機能までをどう提供するかを考えるべき。
- ・高齢化が進むにつれ、より地域完結型医療が求められてくるのではないかと。

### ◆医療連携（介護等との連携を含む）

- ・隣接区域だけでなく、交通網も流出入に影響する中でどう連携体制を構築していくのか。

### ◆地域包括ケアシステム・在宅医療

- ・医療連携は取れているが、今後は介護との連携も一層重要となってくる。
- ・地域包括ケアシステムの充実のため、地域包括ケア病棟における在宅患者の病状変化時の受入れを充実させるべき。
- ・在宅医は多いが、在宅医自身の高齢化や今後の在宅療養への移行による患者の増加を踏まえると、足りるのか疑問。
- ・診療報酬で在宅向けの訪問歯科診療が評価されるようになったため、強化していきたい。

### ◆人材確保

- ・在宅医自身の高齢化が進んでおり、人材の確保が必要。

### ◆その他

（救急医療）

- ・救急件数も増え、今後は肺炎など地域で診るべき救急も増えると予測される。

（小児医療）

- ・小児科・小児救急が不足し、担う人材についても不足している。